



【校長先生便りです！ガレージは在籍したバンド名です。】

# ガレージ通信

夢・進路相談室便り 第9号  
三条市立下田中学校  
TEL 46-2020  
FAX 46-2036  
令和6年1月9日(火)発行

## 『命』さえあれば！

～ 生きているだけで100点満点！！ ～

石川県で最大震度7を記録した「令和6年能登半島地震」発生から1週間が経った。発生直後に下田中学校に駆け付けてくれた佐藤管理士と宗徳先生には、ひたすらに感謝だ。自身の家族を放ってでも学校を死守してくれたのだ。言葉にならない。

未だに多くの尊い「命」が失われている報道が続く。中でも「破壊的」な家屋の倒壊事故は、幾つもの悲劇が重なった。全国で最も「耐震化率」50%と極端に低いのが石川県珠州市で、石川県内で最も高齢化率(65歳以上)が高いのもこの地であった。とてもとても「明けましておめでとうございます。」と言えるような社会情勢ではない。

このような渦中で、下田中学校200名生徒と職員20名の尊い、尊い「命」が皆、無事であったことは、ただただ嬉しく、安堵し、不幸中の幸いだったと痛感している。「命」さえあれば、生きてさえいれば、悲劇の向こう側には、必ず幸せや喜びが待っている。

私自身、何度も死にかけたことがある。人生はいつ、なんどき、何が起こるか分からないのだ！保育園の登園初日、嬉しさ余って左右確認せず、道路に飛び出し車にはねられてしまった。頭部が割れ、数十針も縫う大怪我だったが、一命は取り留めた。

大学2年時に、親知らずの抜歯で、極度の出血多量で救急搬送されてしまった。歯医者怖い。大学3年時には、ライブ中、気管支喘息の重積発作(死に至る危険)を起こしてしまい、救急搬送され、二日二晩呼吸困難で、命の危険があることから新潟の家族が招集されたほどだった。

昨年の柏崎豪雪で8号線上に三日三晩の車中泊で、足止めを食らった。寒かった!腹減った!また若い頃は、未熟で幼く、何度も失敗や挫折にくじけ、涙し、情けないことに「死にたい」などと思ってしまうこともあった。

大学受験は12校受験し、11校が不合格だった。就職した会社が倒産した。デビューしたバンドは、2年で解雇となった。亡き父が一代で築いた会社を継ぐことができずに譲渡してしまった。

どれほど落ち込み、傷つき、涙したことか。それでも何とか今日まで生き延びてきた。「命」あるからこそ、何度くじけようともまた新たな「夢」を目指し、何度も立ち上がり、伝統ある下田中学校の校長に着任できたことは、我が人生で最も誇れる栄誉と実感している。

今年も願いは変わらない!君たち一人一人の幸せな将来の「夢」実現のために、「校長室」＝「夢」進路相談室から、激励のエールを送り続ける。

*I hope that your dreams will come true !!*

三条市立下田中学校 校長 小熊 哲也